

榎崎洋子 | ならさき・ひろこ

日本電気株式会社 (NEC) 経営企画部門 コーポレートデザイン部 デザイナー



榎崎洋子

2017年度
大学院工芸科学研究科
博士前期課程
デザイン学専攻 修了

Fig.1——留学時、ウガンダの小学校にて



Fig.2——仕事の様子 (Designship2023出展)

デザインとビジネスの

大切さを学んだ学生時代

「デザイン」と聞くと何をイメージしますか?私はポスターやプロダクトの「見た目だけ」を作ることだと誤解していました。しかし京都工芸繊維大学に入学して、「見た目」は氷山の一角にすぎず、それまでのプロセス、ユーザーに提供する価値を設計することの大切さを学びました。

産学連携プロジェクト等のグループワークに参加するうちに、多様な専門性のある人と一緒に考えた方がより良い価値を届けられそうだと認識します。また、本学への留学生との交流で得られる新鮮な気付きが刺激的で、提携大学であったフィンランドのアールト大学に留学することを決めました。

留学先では、UNICEFによるウガンダの小学校の衛生環境改善プロジェクトに参加しました。途上国で実際何が起きているかを知りたかったからです。ウガンダに行き、予算が足りないため衛生問題にお金が使えない現状、一度得た支援を元に次の支援を待つだけの人々を目の当たりにし、支援だけではなく、現地の人々が自らまわしていけるようなビジネスの仕組みを作らないと効果が継続しない、と学びました。

デザインの中で

社会に価値を届ける

就職先を選んだ理由は、留学時にお世話になった「トビタテ!留学JAPAN」の支援企業であり、社会価値創造を目標として掲げるNECなら、インフラレベルの大きなビジョンを描いて、社会に大きく価値を還元することができるかも、と期待を持ったからです。

現在の業務では、プロセスの上流からプロジェクトベースで多様な人と一緒に新しいビジネスやサービスを考える活動や、既存のサービスの価値を最大化したり、伝えて

いったりする活動をしています。

それぞれのプロジェクトに、実現したい社会や目指す目標、VISIONがあります。実現のために、「価値」を届けてミッションを果たしたい。その中で私はデザイナーとして、ビジョンの明確化、実際のユーザーニーズの引き出し、議論の活性化、価値を検証するための「設計」をして、メンバーと共に実行し、「人」にとってより良い価値を探索しています。そうやって出来上がった「価値」を効果的に届けるための「設計」、つまりユーザーに見える部分のデザインも行います。

また留学先でビジネスの仕組みが効果を持続させるために大切だと学んだので、プロジェクトの中で価値をどうマネタイズするかも一緒に考えるようにしています。

「デザイン」は幅広く奥深く面白く、デザイン組織の中でも強みを活かし合いながら協力して進めています。

「フラッグ」を立て

飛び込むチャンスを探り取る

先輩の皆さんには少しでも興味を抱いたことに飛び込んでみることをおすすめします。実は私は、大手企業の新卒募集は終了した時期に留学から帰国しました。ベンチャー、通年採用、起業した友人の手伝い、第二新卒等、選択肢は無数にあると知っていたからです。縁あってNECに入社しましたが、留学に飛び込んでいなかったら別の会社だったでしょう。

飛び込むには「フラッグ(旗)を立てる」と良いです。例えば私の場合、海外旅行のお土産を配り、留学経験・海外意欲を常日頃から伝え「海外業務に関わりたい人」というフラッグを立てています。おかげで海外研修に飛び込むチャンスや海外に関する仕事が巡ってきました。

フラッグを立てていれば、友達、先生、誰かが関連する情報やチャンスを教えてくれますので、その時はぜひ飛び込んでみてください。

幅広く奥深い「デザイン」の力でビジネスを動かし、社会に価値を還元していく。